



寒さの中でのスキー移動教室

校長 中山 徹

平成30年(2018年)となりました。今年もよろしくお願いたします。

第3学期始業式の翌日、1月10日(水)に、2年生はスキー移動教室へ出発しました。今年度は長野県上田市にある『ベルデ武石』で3泊4日を過ごしました。

1月中旬は日本列島が寒波に覆われ、九州・山陰・北陸などの大雪のニュースが連日伝えられていました。ただ、実習を行った「番所ヶ原スキー場」は3日間とも晴れ間が多く、気温は「マイナス8度」という状況もありましたが、比較的良好なコンディションの中、生徒たちはスキーに集中することができました。



今回、初めてスキー板を身に付けたという生徒も多くいました。初心者には、1日目、そして2日目も基礎練習が続きました。「スキーをうまくコントロールできない」、「とにかくつらい」、「足が痛い」、「心が折れそうだ」、そんな状況の生徒も多くいたと思いますが、インストラクターの粘り強い指導のおかげで、少しずつ技術をアップさせていきました。よく頑張ったと思います。

スキーの経験があった生徒たちは、今回の実習を通して、正しい技術を身に付け、より安全に滑ることの大切さを学んでくれたことと思います。スキーの楽しさを十分実感できたようです。

今回のスキー移動教室は、2年生が学年全体で取り組む初めての宿泊行事でした。生徒たちの自発性や前向きな気持ち、周囲に対する配慮、マナーなどが試された4日間でもありました。

4日間を振り返ってみますと、時間を守ることについては生徒たちはかなり意識し、きちんと実践できていたと思います。係の仕事にきちんと取り組み、積極的に動いていた生徒も多くいました。健康面でもよく努力したと思います。インフルエンザなどの感染症も心配していましたが、夜もよく眠り、体調を大きく崩した生徒はいませんでした。全員で元気に帰校できたことがとても嬉しかったです。

一方、全体的な傾向として、挨拶、そして感謝の気持ちを伝える姿勢がまだまだ不十分だなと感じました。また、せっかく挨拶をしているのに、声が小さいために相手に気持ちが伝わっていないこともあり、残念に感じる場面がありました。さらに、「場」や「状況」に応じた言動について、生徒同士でもっと意識しあい、お互いに気持ちよく過ごしていくために声を掛け合っていくことが大切なのでは、とも感じました。

今回の成果・課題をしっかりと整理して、来年度の修学旅行に活かしてほしいと思います。